

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2015 年 9 月号 (第 86 号)

発行責任者 稲村 洋二



国指定重要文化財 小野家住宅 / 所沢市林 撮影/仲山富夫

ところざわ倶楽部主催 公開講演会

秋の美術散策

事業部長 二上 拓夫

「モネが発見したニッポン～浮世絵との出会いと創造～」

日本の浮世絵は、印象派の画家達に大きな影響を与え、彼らによる西洋絵画の革新運動の原動力ともなりました。印象派の代表的な画家であり、印象主義の旗手であったクロード・モネ (1840～1926) は、浮世絵の熱心な収集家でしたが、たんに浮世絵を愛好するだけでなく、そこから豊かな啓示を得て、自然を色彩豊かに描く創造的な作品を生み出しました。

日時：平成 27 年 10 月 19 日 (月曜)

場所：中央公民館 (所沢市元町 27 番 5 号)

TEL 04-2926-9355

受付・開場：午後 1 時

開演：午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

講師：齋藤陽一氏

— 入場無料 —

一般の方、市民大学を修了された方、
お友達等お誘い合わせの上ご参加下さい。

齋藤 陽一 (さいとう よういち) 氏



美術ジャーナリスト、美術史学会会員、
元 NHK プロデューサー
数々のスペシャル番組・美術番組を制作
(例) 創成期の「日曜美術館」「日本の美」
国際共同制作による番組シリーズ
「ルーブル美術館」「オルセー美術館」

文芸講座「歌舞伎と文楽」アンケート結果報告

事業部 二上 拓夫

4回に渡って開催いたしました近藤瑞男先生による文芸講座は7月27日大好評のうちに終了いたしました。講座に参加した皆さんのアンケートの結果、感想を報告いたします。



平成
27年6
月～7
月の全
4回「歌
舞伎と

文楽」講座が開催されました。

安土・桃山時代に、女性芸能者出雲の阿国がややこ踊りを基にしてかぶき踊りを開始、このかぶき踊りが様々な変遷を経て、現在の歌舞伎が出来上がりました。歌舞伎と並んで、江戸時代を代表する人形浄瑠璃文楽について、その関係を中心に学びました。

72名（倶楽部会員49名 市民大学7名 一般16名）の皆様からアンケートをいただきました。

I 講座内容は如何でしたか。良かった 89%
普通であった 11%

II 講座回数は如何でしたか（4回）長かった 3% ちょうど良い 74% 短い 24%

III 今後もこのような企画に参加されますか はい 100%



講座内容についての感想

- ① 講座を拝聴し、歌舞伎が身近に感じられた。文楽に興味があったので拝聴できてよかった。
- ② 文楽はなじみがないが、人形の生々しさ、美しい動きにビックリした。古典芸能は大変貴重と感じた。
- ③ 日本の古典に触れられ勉強になりました。
- ④ VTRによる音声と映像が理解を深める素晴らしい講座でした。
- ⑤ とても楽しく受講させていただきました。舞台についてのお話が解りやすく、興味深く伺いました。
- ⑥ 先生のお話を伺い、舞台をみる楽しみが増えました。文楽を是非観たいと思います。
- ⑦ 近藤先生が時折、楽しいお話を入れ、情熱の入った解説良かったです。
- ⑧ 回数を増やし、もう少し詳しく学びたかった。
- ⑨ 歌舞伎の講座にて、観劇を企画してください。
- ⑩ 資料の文字が小さく読みづらかった。
- ⑪ 暑い時期でしたので、出席がきつかった。開催時期について、夏は避けてください。

7月度 理事会報告

総務部長 稲村 洋二

7月13日（月）第8回理事会開催。

(1) 総務部案件

- ・理事交代について、「地球環境に学ぶサークル」の長岡慶一氏が退任され中島峯生氏が就任。
- ・22期市民大学閉講式時のサークル展示と申込み受付（9月14日理事会時）
- ・総会は11月12日（木）ミューズにて実施。総会后、懇親会を行なう。役割分担は9月理事会で決定。サークル発表は行なわない。
- ・運用規定の追加 「会則20条による細則」に第4条（5）サークル名の変更、サークル活動の休止、サークルのところざわ倶楽部脱会については会長に報告し、理事会の承認を得る。

(2) 事業部案件

- ・秋の講演会（美術講演会 斎藤陽一氏）
 - ・総会時の懇親会は事業部で詳細検討する。
- ### (3) 広報部案件
- ・広場7月号の内容と9月号の編成案を説明（8月号は休刊）。
 - ・HP担当の引継ぎについて
岡田俊吾氏は平成27年10月まで担当、11月からは玉上佳彦氏が引き継ぐ
7月初めに、第1回の打合せを行なう予定。
引継ぎに当たり、パソコンの切り替えが必要だが、個人のパソコンでは引継ぎの都度リンクの張替えなどが大変なので、ホームページ用のパソコン購入を検討したい。次回（9月）理事会で、具体化して提案。

感想①

「歌舞伎と文楽」講座を受講して

楽悠クラブ 秦 行夫



今回、4回講座の近藤瑞男先生のお話を大変楽しく受けさせていただきました。第2回の「舞台と大道具」で聞いた、舞台（建物）の種類二重で、登場人物6名までの上下関係の演じ分けとか、改めて理解を深めたが、1～2回の講座については、島川謙二さんが7月号にお書きなので、今回は3～4回の講座について感想を述べたい。

第3回（7月13日）は、「女形の歴史と演技術」でした。

歌舞伎は、慶長の頃のお国の「ややこ踊・かぶき踊」が「遊女歌舞伎」「若衆歌舞伎」「野郎歌舞伎」と発展したが、寛永の頃、女性が舞台上がることを禁じられていたので、男性が女性の役柄を演じる様になり、元禄期、芳沢あやめ・瀬川菊之丞と云う名優が生れ、その後も名女形を輩出し、歌舞伎の特異性となっている。オペラで「ばらの騎士」「フィガロの結婚」などに、「ズボン役」と呼ぶ、男装の女の出演はあるが、男性が「立女方」を演ずる演劇は世界に例が無い。歌舞伎は男を誇張する立役と共に鍛え抜かれた女形が演ずる事により、極限の悲劇など、女が演ずる女よりも、より際立った感動を与える。男性の女形により初めて可能なのだとのこと。

感想②

「歌舞伎と文楽」講座を受講して

活いきシニア福祉の会
木口 温子

開口一番、近藤瑞男先生は「歌舞伎」は庶民の芸能・娯楽・文化ですと話されました。

今まで歌舞伎・歌舞伎座に行く事とは、服装もあらため、少し気取って高尚な古典・芸術を鑑賞するものだと思いついていました。親から子供へ、又、孫へと幼少時から、厳しい修行を重ねて来たからこそ、役者達の舞台は時代を超えて、現代の私達にも、共感し感動を覚えるものなのでしょう。



ビデオの数々を見せていただきまして、役者の色鮮やかな衣装が目立ちます。その上、化粧、髪型、所作に引き込まれました。女形の演じる艶めかしい、踊りを見るような、流れのある動き、感情をゆっくり表現する間の取り方、荒事の大きな動き、抑揚のあるセリフ、くまどり等興味あるものでした。笑い

改めて理解を深めた。

第4回（7月27日）は、「歌舞伎と文楽」でした。先ず、浄瑠璃の解説、「平曲」＝平家物語の語りの人気が落ちた頃、その一部から、浄瑠璃姫と牛若の恋物語等が伴奏付きの語り物となり浄瑠璃と呼ばれた。慶長の頃、新楽器三味線と操り人形が結合して人形浄瑠璃を形成し17世紀末、義太夫節成立までが古浄瑠璃の時代で、多くの流派が生れた。叙事的要素が強く未熟であった。オペラの歴史でもギリシャ神話・ローマの英雄などを題材とするオペラ・セリア（serious）が、世俗的内容を持つオペラ・ブッフアが幕間劇となる様な初期の変遷がある。

（能の合間の狂言の様な）浄瑠璃の世界も貞享はじめ、竹本義太夫が近松門左衛門と云う奇才と出会い、義太夫節を地とする文学性・戯曲性の豊かな作品が生まれ、古浄瑠璃を駆逐した。近松と義太夫の人形浄瑠璃の多くは歌舞伎に演出され今日に至っている。その後、盛衰を経るが明治5年、植村文楽軒が文楽座をつくり、浄瑠璃の呼称は文楽とも呼ばれる。明治の頃、東京に娘義太夫が1,000人もいて書生達が通ったと云う。志賀直哉・高浜虚子等が熱中したと云う。今日文楽の世界は能よりもマイナーな存在であるが、民族の遺産として残したい。近藤先生には今後とも精力的活動をご期待申し上げる。

を誘う場面もありました。舞台装置、大道具・小道具について分りやすく説明下さいました。元禄時代に花開いたと伺いましたが、その時代の道具方達が知恵を絞り、より面白く皆が驚くような奇抜な演出を考え工夫を重ねたればこそ受け継がれ今に至ったのだと想像できますね。歌舞伎の演目にはどう読むか分からなかったり、歌舞伎十八番「ういろう売り」の様に何度も読んで、早口言葉を覚えたりしましたが、セリフを暗記するのは大変な事です。

きんぴらごぼうは良く作る惣菜ですが、坂田金時の子供の名に由来するとは、知りませんでした。愉快な話ですね。新装なった歌舞伎座は、お土産売り場だけで未だ舞台を観ていませんが、是非行きたいと思います。昔は庶民の楽しみだったのでしょけれど、伝統に裏打ちされ独特の世界を築いて、これからも歌舞伎は煌びやかに人気を集めるでしょう。興味深い4回の講座、楽しかったです。

感想③

「歌舞伎と文楽」講座を受講して

野老澤の歴史をたのしみ会
内尾 幸子

第3回の講座は「女方（形）おんながた」です。

前回に引き続き近藤瑞男先生の講話を受講しました。女形は歌舞伎の役柄の中で女の役を演じる役者です。女芸人による「おんなかぶき」と言われる時代がありました。幕府によって女性が舞台上がるのが禁止されると男性が女性の役柄を演じるようになった。舞台だけで女性のしぐさを演じるのは難しく、日常生活においても女性のしぐさなど研究して、本当の女性以上の立居振舞を身に付けるのを要求されているようです。芸術のためとは言え、男性でありながら女性のしぐさに四六時中没頭するのは、精神的苦痛、ストレスなどあると思いますが、どのように発散されているのだろうか？ 鬘、着物の重さに耐え、長時間の舞台を勤める体力はもはや女性のものでなく、男性の身体にマッチした様式で完成されていると言えます。一方英国の「シェイクスピア」の時代には「女形」は少年が演じていた。若くて可愛い少年を求め高度な芸は要求されなかったようです。しかし「マクベス」は例外でマクベス夫人は芝居の上手い天才的な少年が抜擢された様です。このところ毎日猛暑続きで、7月27日も朝から30℃を超す暑さ、それにも拘わらず大勢の皆さんが受講されました。



7月27日の講座は「歌舞伎と文楽」の最終回です。近松門左衛門の歌舞伎作者と竹本義太夫の語りのコンビは、心理描写の「情」とか「あわれ」を入れて語り始め、大人気を博した。それまでは心理描写はなく「あらすじ」を語るのみであった。「曾根崎心中」は実際にあった「お初・徳兵衛」のセンセーショナルな心中事件をモチーフにし脚光を浴びました。茶の間から舞台に移行する手腕は人の心をつかみ近松門左衛門は不動の地位にのし上がり、その上三味線が加わったため「あわれ」な情感を一層引き立て人々の心に沁みこんだのだろう。浄瑠璃の初期の頃は「三味線」はなく、江戸時代以降に三味線が仲間入りしてからは大きく影響され、爆発的に発展しました。「文楽」は人形浄瑠璃芝居で、三人遣いで人形を演じるのです。「主づかい」は「顔」と「右手」を動かし、高下駄を履き、「足づかい」「左手づかい」の演技、呼吸が合わない時には蹴とばしたようです。以前の人形は顔・手などは動きませんでした。その為、現在の人形と舞台にすべて作り直したようです。講話の最後に「近藤瑞男 作陶展」を新宿・小田急百貨店で開催されると紹介があり、早速伺いました。素晴らしい作品の数々に接し、目の保養が出来ました。

こんな事あんな事⑩

朝さんぽ 花ごよみ

懐かしの映画・鑑賞会 新井 アキ江

朝5時、新鮮な空気を吸って歩き出すと、眠たい目も少しづつ覚めていきます。200メートルほど行くと長いながい登り坂になり、途中で満開の桜にホッとしながらも、ここでは足を止めずに花見。この先にもみごとな桜の名所があるのでそこではゆっくりお花見。下り坂になり、ユキヤナギの白い小さな花が清々しい。



青空に一面の茶畑が広がり新芽がとてもきれい。のどかな朝ばかりではありません。遅霜が心配なのでしょう、10数機で茶畑全体に風を送ってゴウゴウと大きな音がしています。白きぼたんの花は息をのむほど美しい。ある朝、床屋さんに行ったような茶畑、一気に刈り取られています。今は手摘みではなく、文明の力ですね。昨日まですくすく伸びていたのに…、おいしい新茶になるのでしょうか。花はしゃくやく、つつじ、チューリップへと変わり、手入れの良い家々の花壇色とりどり、

ご自慢のお庭拝見、赤いバラ白いバラ、ピンクも。川岸に毎年濃いむらさきのスターチスもあざやか。この頃になると、池の鯉も元気にピチピチ、カモも仲良く泳いでいます。睡蓮もつぼみを天に向けて咲く準備をしています。あじさいが日ごとに変化して色を楽しませてくれます。雨の日は散歩を休み…。数日間サボっていると夏になり、ノーゼンカヅラの赤は暑苦しく感じますが、サルスベリ、ルリモドキ、百日草は暑中咲き続けるので感心しますね。マリモのような栗の実、愛らしいざくろの実、我が家でもレモンが4個なり黄色くなるのが楽しみです。良い香りのブルメリアの花も咲いて、おみなえし、ススキ、秋がそこまで近づいています。今朝は青サギが悠々と西の空へ飛んで行きました。気づかずに通り過ぎたり、名前の解らなかった花もあるかも知れませんが、真っ赤な太陽が昇る時、遠くに富士山を望むときが最高です。



「戦後70年を振り返る」シリーズ 第5回

終戦70年前 戦争の記憶

野老澤の歴史をたのしむ会 粕谷 昇

戦後70年を迎え、沢山の報道がなされています。私の終戦時は、11歳当時、所沢町山口国民小学校の6年生でした。

町は1町6ヶ村が合併し、町制を敷いていた。その村の子供の目から見た記憶と感慨である。

私の地域には、所沢飛行場のような大きな軍事施設は無かったが、東京市民の水がめである山口貯水池があり、電波探知機の施設が、丘陵の菩提樹峰にプロペラのような探知機が空を仰いで常時回っていた。また、堤防を空中魚雷から守るため、高射砲隊が堤防から見える取水塔近くに、2基の高射砲を備えていた。

更に、敵機の高度方位等、測定を監視する監視塔が、狭山富士の頂上に在り、双眼鏡による監視だったようだが、岩に囲まれてあった。

山口・村山両貯水池の堤防は、黒くペンキで塗ら



現在の山口貯水池

れ、畑の畝と錯覚するように筋がひかれていた。この頃の土蔵は白壁では目立つので、皆ペンキ塗りされたようである。丘陵に囲まれた山口地域が万が一、堤防が破壊された場合に水位がどの高さまで来るかという表示の横版があちこちの電柱に打ち付けられていた。したがって、各家では水の来ない所へ財産の一部を疎開、保全方法を考えていた。今思うと満水時に決壊してもあの水位まではこなかったのではと思う。堤防が決壊された場合、村民に周知手段として、南北の峰に横穴が掘られ、一方の入口は堤防が見えるようにし、釣鐘が吊るされ、堤防決壊を知らせる段取りだったらしい。この一つを6年生の時、見学した記憶があるが、後年、その場所へ行って見たが何処か分からなかった。

山口・村山の貯水池は東西に走る3本の丘陵を堰き止めてできた湖である。私の山口村は、谷底の村であり、南北のどちらかの峰に登らねば富士は見え



ない地域であるが、東京や立川、八王子方面の空襲による被災状況はよく見えた。夜は顕著だった。それぞれの方向の空は真っ赤に天を焦がし、何時までも続き、時には焼け焦げた匂いまでも運んできた。毎日、空襲や警報のサイレンが鳴った。鳴ったときはすでに重低音のB29爆撃機が真上の成層圏を轟々と飛んでいた。機翼は白く凍ったように整然と編隊を組んでいるのが印象的だった。夜間の空襲等は映画を見るように、照空灯が敵機を探しだすと、敵機の飛ぶ方向につぎつぎにリレーし、各地の高射砲隊に迎撃するよう促していた。然し、その高度迄は弾が届かなかったようだ。それは、曳光弾が示していた高射砲機関砲の弾道を示す光を放つ弾は弧を描いて落下していった。高空を飛ぶ敵機には歯がたたなかった。昼間の空襲時には、高射砲の弾幕も見え、当たるかな・・・当たってと願いゲームを見ているような感覚だった。

大きなB29に対し、小さな日本の戦闘機が立川方面の上空で四方から襲いかかる事もあったが、私が見たのは、蚊が落ちるように煙を吐いて、スーと落ちて行くのは何時も日本の戦闘機だった。でも、この機の搭乗員は落下傘で降下していた。中には、歯痒い状況に、体当たりしたのも、今のテレビ感覚で見ていたことを記憶している。米軍機も、たまたま、安松方面に落ちたのを見に行った奴がいて、飛行兵の腕がちぎれており、その腕をぎゅうぎゅう踏んづけている者がいたそうだ。

或る時は、所沢飛行場を艦載機が数編隊で急降下し銃撃し、反転し、すぐさま山口貯水池の取水塔を低空飛行しながら銃撃、これを繰り返した。その時は飛行士の顔も肉眼でよく見える程の低空攻撃だった。その後、道路には機関砲の葉莖が沢山落ちており、駐在に届けに行った。

所沢地区への空襲被害 所沢地区への空襲は、昭和18年から始まり、同20年に熾烈となった。
警戒警報335回 空襲警報72回 被害回数15回
負傷16名 死者15名 全半壊家屋54棟
焼失家屋11棟

サークル活動報告

暑気払いはタイ料理

アジア研究会 福田 晴男

猛暑が続く中での会食には、熱帯の国「タイ」の美味しい料理が最適です。中央公民館の近くにあるタイ料理店を当初 12 名の出席で予約していたところ、嬉しいことに 2 名の飛び入りがあり、計 14 名による盛大な？昼食会となりました。

“タイ料理は初めて”という会員も一緒に、ランチタイム定食メニューから各自の口に合いそうなメニューを選択します。種々のスパイスを適度に効かせた料理の数々は、エビ入り焼き飯（カオパッドクン）、焼きそば（パッタイ＝米粉ビーフン）、春雨・エビ・野菜の和え物（ヤムウンセン）、タイカレー（マイルドなもの、多少辛いもの）、タイラーメン（センレック＝米粉平麺入り）、エビ入り辛口スープ（トムヤムクン）、ナス・肉の炒め物など。

乾杯は、シンハー（タイビール）、ジンジャーエール入りのグラスを片手に、皆で声を合わせて「チャイヨー！！（タイ語で万歳）」の三唱です。タイ料理を食べる際は、右手に“スプーン”（ナイフ兼用）、左手に“フォーク”を持つのが基本で、適宜、お箸も用います。我々高齢者には定食の量が多少多めに感じられるのと、自分が注文したメニューと異なるものも食べたいとの好奇心も加わり、チョットずつお互いの料理を分けあつたため、日頃目にしたり口にしたりすることが少ないエスニックな料理を味わうことができました。タイビールを飲み干した後は、タイウィスキー“メコン”の出番です。お米から作った焼酎の一種でアルコール度は 25 度。皆でボトルを回しながらオンザロックで飲むと、口の中がさっぱりとした心地よい酔いがまわってきて話題も大いに弾みました。和気藹々の食事会を過ごすことができたので、ところざわ倶楽部の皆様にも「タイ料理」を是非お勧めしたいと思っています。

サークル活動報告

歌舞伎と懐石料理の一日

葵の会
池田新八郎

葵の会は 1 月より 7 月まで約半年、随筆文学の名著、兼好法師の「徒然草」を学んできました。年を重ねれば兼好の人間生活の見方、批評、仏教的な無常観などが快く響き、何となく落ち着きます。「つれづれなるままに日ぐらし、・・・心にうつりゆくよしなしごとそこはかとなく書きつくれば、あやしゅうこそ物ぐるほしけれ」という冒頭の言葉に、我が身を振り返り、なるほどという心境になりました。西行や鴨長明、芭蕉など先人が辿り着いた静かな枯淡な境地にますます魅かれる昨今です。今年の残りは小川達雄先生専門の「宮沢賢治 秩父をゆく」を学習、来年は「方丈記」にチャレンジする予定です。8 月は講義を休み、猛暑の中の一（21 日）、午前は歌舞伎 DVD 鑑賞、午後は暑気払いとよしある時間を過ごしました。

歌舞伎 DVD は「弁天娘女男白波」（白波五人男）で会員の杉本哲雄氏の解説で鑑賞しました。作者の河竹黙阿弥は江戸末期の社会全体

が大きく揺らぎ、暴発と抑圧の中で庶民が刹那的に生きた時代の退廃的な雰囲気、この作品のなかで描きました。日本駄右衛門、弁天小僧等ドロボウ 5 人男の痛快なドラマ。「知らざあ言って聞かせやしょう」と弁天小僧が威勢よく啖呵を切る場面は庶民の共感を呼び、鬱憤を晴らす役割を果たしていたのでしょうか。出家した兼好の世界とは別に、生々しい欲望に満ちたワルの世界が描かれています。しかし社会から外れたところでしか生きられない人間の生き方には共通するものがあるような気がします。午後は三ヶ島にある懐石料理店「梅の花」で暑気払い。こだわりの豆腐、湯葉の店自慢のコースで、しっとりとした静かな雰囲気の中で会食いたしました。小川先生も参加、17 人で猛暑をふり払わんと皆さん意気盛んでした。特に島川謙二氏の駄じゃれトークショーは新ネタも取り入れ皆さんの喝采を浴びていました。



サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

アジア研究会(杉浦正紀 2949-5560)

9月17日(木) 定例会 13:30~16:30 中央公民館
 討論会「日韓関係を考える(その1)」
 10月21日(水) 定例会 13:30~16:30 中央公民館
 討論会「日韓関係を考える(その2)」

傍聴席(高垣輝雄 2926-7164)

9月15日(火)定例学習会、14時~新所沢東公民館
 テーマ:県の出前講座「マイナンバー制度」、この制度は社会
 保障・税・防災に繋るとされています。詳細は倶楽部のHPを
 ご覧ください。開催日にご注意。

地域の自然を考える会(広沢正己 2939-9181)

9月12日(土) 糎谷八幡湿地 稲刈り 8:00~
 9月29日(火) トロ12号地 管理作業 10:00~12:00
 10月3日(土) 早稲田大学湿地 稲刈り 9:30~13:00
 10月10日(土) 糎谷八幡湿地 脱穀作業 8:00~

地球環境に学ぶ(塚本二郎 2942-3117)

9月15日(火)定例会 9時~11時 新所沢東公民館
 生ごみのメタン化施設の見学報告と各人の研究課題発表。
 10月13日(火)定例会 9時~11時 新所沢東公民館
 ※10月は開催日が第3火曜日でないで注意

楽悠クラブ(甲田和巳 事前連絡は不要)

9月8日(火)9:30~役員会/議題:次年度活動計画案作成
 9月8日(火)13:15~歌劇「蝶々夫人」DVD鑑賞
 10月6日(火)13:15~歌劇「ジャンニ・スキッキ」DVD鑑賞
 (場所)月例会:中央公民館#8・9/役員会:中央公民館#3

歴史散策クラブ(大河原功 2943-2004)

9月12日(土)石神井公園歴史散策
 集合:所沢駅2階 9:30
 10月17日(土)神田川沿いの歴史散策
 行き先などに変更の予定あり、詳細は別途お知らせします。

北欧の会(樋口俊夫 090-6483-7993)

第60回例会 9月19日(土)13時20分~
 北欧のDVD鑑賞、持ち寄り学習他
 第61回例会 10月27日(火)13時20分~
 新所沢東公民館

地域の自然(宮脇正 090-6483-7993)

9月12日(土)早稲田大学B地区
 畑、除草、下刈り 植生調査
 9月27日(日)みどりの森博物館 所沢市域
 雑木林保全活動

所沢の自然と農業(清水仁一 2944-8835)

9月下旬 くぬぎ山の手入れへの参加
 10月8日 定例会(13:00~ 新所沢公民館)
 10月21~23日 長野県高山村りんご収穫ボランティア
 10月下旬 柳瀬公民館「麦まき&うどんづくり体験会」支援

ドラマティック・カンパニー(伊藤孝子 090-3402-2962)

9月5日(9:30~11:30)、9月19日(9:30~11:30)、10月3日(10:00~12:00)、10月31日(10:00~12:00)、いずれも新所沢東公民館。
 シェイクスピアの「ウインザーの陽気な女房たち」を読み進めます。シェイクスピアを楽しく深く学べます。見学歓迎。

葵の会(池田新八郎 2940-0711)

9月10日(木) 13:30~16:00 中央公民館
 文学講座「宮沢賢治 秩父を行く」第1回 小川達雄先生
 9月17日(木) 第2回文学散歩
 田端文士村散策 詳細は別報

野老澤の歴史をたのしむ会(小倉洋一 2949-4695)

9月17日(木) 鎌倉街道、上道を鎌倉まで歩く
 8:30分集合 JR武蔵野線 新秋津駅
 10月1日(木) 三芳町周辺の文化財を訪ねる
 9:00集合 所沢駅東口バス乗り場3番(大宮駅行)

公園を楽しむ会(渡部正俊 2921-3014)

9月24日(木):「智光山公園とサイボクハム」
 集合は所沢駅
 10月22日(木):「石神井公園からちひろ美術館へ」

ところ会(居田治 2903-8400)

9月25日(金) 彼岸花の巾着田と高麗方面を歩く
 10月15日(木) 所沢市内を散策する(2) 三富方面
 11月6日(金) 年次総会
 12月4日(金) 紅葉の品川を歩く

懐かしの映画・鑑賞会(二上拓夫 080-1250-6151)

9月8日(火)10:00~12:30 西新井町公民館
 「邦画 三丁目の夕日'64」(12年) 堤真一・吉岡秀隆
 9月22日(火)10:00~12:30 西新井町公民館
 「洋画 麗しのサブリナ」(54年)ウィリアム・ホールデン

民話の会(仲山富夫 090-3902-0283)

9月18日(金) 10時~13時 中央公民館 学習室1号
 (8月「やなぎ児童館」での活動内容の反省と今後の取り組み
 について検討)「河童の詫び証文」を、読み合わせ。
 10月16日(金) 中央公民館 定例会

食を通して所沢を知る会(岡部まさ子 2928-1868)

10月6日(火) 10:00~12:30 食トコマップ作成打合せ
 於:ふらっと
 11月10日(火) 10:00~12:30 [地産地消]の現状 コロッセ
 代表峯岸氏に聞く 於:ふらっと

みんなで学ぼう認知症(本多義博 090-3144-1438)

9月28日(月)13:30~ 生涯学習推進センターにて
 会員が講師を務める「ビデオ」鑑賞会

所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口元也 090-9820-5668)

9月3日(木) 定例会 13:30~15:30
 中央公民館 1F 学習室2号
 議題 「シニア向けセカンドライフ講座」開講 準備・
 打ち合わせ ほか

活いきシニア福祉の会(佐藤重松 090-5412-5760)

9/16(水)第11回定例会
 9/30(水)第4回「地域包括ケアシステム」市民の会
 10/21(水)第12回定例会 10/24(土)「地域包括ケアシ
 ステム」市民の会シンポジウム(開催予定)

【私の健康法 第28回】

香りに学ぶ

食を通して所沢を知る会
矢崎 みどり

時代劇の篤姫で、香炉を両手でそっと包み、香りを聞く(嗅ぐ)姿を見て「あれは何?」と思ったのが入門のきっかけです。あれから3年間、月2回“古心流香道教室”に通っています。

香道の歴史は遙かな昔、飛鳥時代仏教伝来と共に、練り香・香木が伝わり、神秘性・崇高性を持つ香りを、用い式場を清め、精神面への作用を利用したそうです。時代と共に貴族から武家社会、そして商人、一般社会へと移行しました。香りを聞きあてながら楽しむ(組香の原型)のですが、書道や七つ道具を使つての作法香帛さばき、古典の知識など、奥が深いことに驚かされます。次々に焚きだされ回ってくる香炉に神経を集中し、香りの空間で自分なりの思いを巡らせる二時間は心が安定し“至福の時”です。

香木は(六国五味)すべて輸入で産地により六種に分類され、インドのマナバールで産出したものは真那蛮と呼び、私はベトナム産の伽羅が優雅で好きです。香りの立ち方は、五味=辛・甘・鹹(塩辛)・酸・苦の感覚で表現されます。嗅覚は脳の海馬に最もストレートに刺激が伝わるので、認知症の防止にも有効だそうです。まだまだ私の回りには知らない世界が広がっていて、これからも「未知との遭遇」に心をときめかして、日々を過ごせたらと思うこの頃です。



むさし野俳句会(二十七年八月) 作品抄

草の花音楽寺の一揆の碑
秋簾透けて隣家の幼声
汗拭くに他人の手借りる泥仕事
大利根の土手一面の草の花
読めぬ句碑指でなぞれり草の花
西日差すことぶき荘といふ下宿
蟬時雨駅舎の失せし鉄路かな
汗の地図四大陸を統合す
茅葺きの屋根の上にも秋の草
嬰兒のママに似てゐし鼻の汗

鈴木 征子
海老澤愛之助
粕谷のぼる
河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋三加子

それぞれの汗を車内に持ち込めり
父付けし和子てふ名や終戦日
いくとせの汗になじめり藍木綿
列なしてゴンドラの旅天の川
教卓の一輪挿しや草の花
廃校の庭を埋むる草の花
空蟬の数多なる樹や原爆忌
不揃ひの色鉛筆や草の花
広島忌路面電車の灯りかな
利根川啓一
中嶋 弘子
中村 直子
橋本 佑子
平栗 彰子
荒幡千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
高光 泉



【新企画】 川柳 中島 峯生

「この爺に脱いでごらんと女医の指」みつる、この川柳は、第6回ところざわ川柳大会報の課題「怪しい」によるものです。

ラジオの庶民の味方の「ぼやき川柳アワー」、「文芸選評」、新聞の文芸欄等で見、聴きます。川柳は五・七・五の十七音字で作リズムをもたせ口語体で、切れ字を使いません。同感できれば良い句です。「穿ち・軽み・滑稽」と言いますが、作ることをお勧めします。頭の体操になります。サラリーマン川柳2位「湧きました妻よりやさしい風呂の声」湘南おじん、いい夫婦川柳「いい親であるより先にいい夫婦」波多野千湖、「本降りになって出ていく雨宿り」江渡川柳等を多くお楽しみ下さい。

《編集後記》

私がサラリーマン当時のはるか昔、上司から言われた事がある。期限を切って指示を受けたときに「あと何日しかない」と考える者、「まだ何日ある」と考える者のふた通りの部下がいるということで、当時はバブル経済の真っ只中、何事もソレイケドンドンの時代でした「すぐやる課」が設けられ「あと何日」どころか「2日前には終わらせて持って来い」といわれるのが当たり前のような時代でした。私はつねに何か追いかけているようなゆとりのない日常を過ごしていたものです。ところざわ倶楽部で「広場」の編集に携わることになり期限をきつての原稿依頼をしたり、自分自身で書くことになったりしてありますが今でも「あと何日しかない」と考えて精神的に追い込まれるような日々を送って期限を迎えてしまうという当時と少しも進歩していません。「だから何なのヨ!」と考えるような凶太さというかよく言えば心にゆとりの持てる生活したいなー、などと考えてしまいます。とは言い期限は守らないといけませんよね。皆さんは如何ですか。(記 広沢 正己)